

## 令和5年度旭川未来会議2030 子育て分野 第1回分野別会議 会議録

- 1 開催日時 令和5年6月23日(金) 午後6時から午後7時40分まで
- 2 開催場所 旭川市第二庁舎 6階 会議室(旭川市7条通10丁目)
- 3 出席者(参加者) ※敬称略, 五十音順  
喜多柚月, 菅原千聖, 田中慶人, 早川由理, 松澤美沙, 丸山恵理, 森本優菜, 山田覚, 吉田育子
- 4 出席者(市側)  
(運営事務局)  
子育て支援部 浅田部長, 竹内次長  
子育て支援課 清原子育て企画係主査  
(統括事務局)  
広報広聴課広聴係 乙坂主査
- 5 会議の公開・非公開 公開
- 6 傍聴者 1名(報道機関: 1名)
- 7 意見交換  
※進行役: 早川由理

(参加者)

- ・ 子育て世帯の経済事情について, いろいろな手当や支援があっても, 必要最低限なので余裕はあまりないという印象。
- ・ 「子育て」というと, なんとなく3歳くらいまでのことをイメージしていた。
- ・ もう少し大きくなって, 習いごとをしたいというときに, 家計が原因でさせてあげられないと子どもも親も辛い思いをする。
- ・ 例えば, 大学と連携して, 大学の部活動の一環として, 子どもにスポーツなどを無償で教えてくれる取組があるといい。

(参加者)

- ・ 近隣町では, 習いごとの送迎などを町がサポートしてくれるところもある。

(参加者)

- ・ 送迎してくれるのはありがたい。

(参加者)

- ・ 働いているお母さんには本当にありがたい。習いごとなどの時間はまだ仕事だし, 送迎がハードルになってやらせてあげられないということもある。

(参加者)

- ・ 安心して(習いごとなどの)経験ができるということはありがたい。
- ・ 勉強や運動の体験会のようなものが、定期的にどこかで開催されていて、そこに参加できると体験につながる。

(参加者)

- ・ 教育大が関わってくれれば、学生にとっては実地経験になるし、子どもにとっては経験になるし、お互いにとっていい。

(参加者)

- ・ 旭川市立大学にも幼児教育学科があるし、子どもと関わる仕事に就く学生なので、制作などで連携できるといい。

(参加者)

- ・ 親向けの視点でも、お金をかけなくても、例えば画用紙1枚でこんなことができるんだ、こんな遊びができるんだ、ということが知れるのもいい。
- ・ 雨の日で、どこにも行くところがないけど、家でもこういう遊びができるということが知れたり。

(参加者)

- ・ そうした参加型のものが、シーズンごとにあったり。
- ・ ノートの取り方のコツなど。

(参加者)

- ・ イオンなどでお仕事体験をやっているが、すごい人気。定期的であれば。

(参加者)

- ・ 子どもたちの体験格差が大きくなっている。
- ・ 学校以外で、文化、芸術、旅行など関わったことがない子どもが結構いる。
- ・ お金をかけなくても体験させてあげられることはあると思う。
- ・ 今週末デザインウィークでいろいろな体験ができる。すごくいい。

(参加者)

- ・ 小学生にもなると、旅行や体験したことの話題になることが多くなるが、そういう話に入れなくて悲しい思いをすることもある。
- ・ 親も、いろいろなことを経験させたい、提供したいと思っても、どんなものがあるかわからないという面もある。遊びを体験させたいけど、どんなもの、どんな場所があるかわからない。
- ・ 今回のテーマは広く、いろいろな意見が出ているけど、その中でもこれはできそうな気がする。

(参加者)

- ・ 今もいろいろなイベントや行事はあると思うが、なかなか伝わってこないのが、わかりやすく知ることができる取組があれば。
- ・ 運動や勉強などを体験してみて、その後も続けたいと思ったときに続けられる環境や支援があるといい。

(参加者)

- ・ 本当にいろいろなイベントがある。

- ・ 科学館の夏休みのイベントもとても魅力的。
- ・ 小学生は、4年生以下だと校区外は保護者同伴が必要で、5年生以上は保護者の了解の上で3人以上なら子どもだけで行動できる。
- ・ なにか活動を紹介しようにも子どもだけで行けないことも多い。
- ・ 送迎など、子どもだけで安心して参加できる取組があるといい。

(参加者)

- ・ 小学校に大学生が出向いたりとか。

(参加者)

- ・ 子どもが歩いて行ける場所、自分が暮らす地域にあればいい。

(参加者)

- ・ 歩いて行ける距離にあるといいけど、場所数が多くなると人的リソースの問題があると思う。
- ・ 大学生が来てくれるといいけど、人数には限りがある。
- ・ 巡回するにしても、小中学校で50校以上ある。
- ・ 団塊の世代の人たちがたくさんいるし、まだまだ元気な人も多いと思うから、なにかしらの形で関わってもらえるといい。
- ・ それぞれの人が持っているバックボーンを活かして。
- ・ 中学校の部活動指導を民間に委託する動きがあるが、同様に小学生の課外活動にも地域のシニア層が関わって、地域の人的リソースを活かした習い事のような活動が、子どもたちが歩いて行ける地域ごとにあるといい。

そして、シニア向けの指導者講習会の開催など、シニア層がそのような活動に参加しやすい環境づくりを行政が積極的にバックアップしてはどうか。

(参加者)

- ・ コロナ禍でいろいろな関わりが絶たれている中、逆に見ると、新しい取組を始めるチャンスでもあるといえる。
- ・ 子どもは人との関わりの中で様々なことを学ぶので、そうした機会を増やしてあげたい。
- ・ いろいろな支援はあるが、自己負担が必要なものも多い。
- ・ 例えば、妊婦健診は回数も多いので、トータルするとそれなりの額が必要になる。
- ・ ショートステイ、トワイライトステイというのがあるが、コロナ禍でお母さん方が疲弊し、利用希望がとて多かったと聞いた。しかし、受入可能数の問題で対応しきれないという状況もあったということで、希望者が全員利用できるになることも必要。

(参加者)

- ・ 妊娠中は、体は大変だと思うが、比較的時間の余裕があると思うので、出産後のことを勉強できたりするといい。
- ・ おとうさん、おかあさんになるために必要なことなどを知ることができると、安心して出産にのぞめる。

(参加者)

- ・ コロナ前は産科婦人科でやっていた母親教室は復活したのかな。

(参加者)

- ・ 沐浴の方法とか。

(参加者)

- ・ 沐浴の方法を教わったときに、父親になる実感というか、モチベーションに変化はあったか。

(参加者)

- ・ 個人的にはなかった。
- ・ お母さんのお腹に子どもがいて、お腹が大きくなるのを見てはいても、生まれて初めて実感する。
- ・ 母親教室は出てよかった。同じ状況のおとうさん方も来ていたから。

(参加者)

- ・ 実際の子どもをだっこできたり、着替えを体験できたり、ふれあえる機会があるといい。

(参加者)

- ・ 市でそういう取組をしていなかったか。

(事務局)

- ・ 以前は、実際の母親と赤ちゃんが高校などに出向いて、ふれあいの場を持つ事業を実施していたが、コロナになってからは中止している。今後の再開も未定。

(参加者)

- ・ 既に、子ども向けや親子向けのイベントはいろいろ行われているから、それらを1つにまとめたサイトなどがあるといいし、できると思う。
- ・ まとめサイトのように、そこに行けば全てがわかるというような。

(参加者)

- ・ 民間でも、いろいろな人がいろいろなことをやっているが、個人でやっていたり、発信力が弱いので知られていないことも多い。

(参加者)

- ・ 広報誌やこどもーるにイベント情報が載ってはいるが、それぞれを見にいかねばならず探しにくい。

(参加者)

- ・ 民間で活動している人がイベント情報を手軽に登録できて、日付で検索できるといい。

(参加者)

- ・ 広報はいろいろな情報が載っているし、個人的には好きだが、特に若い世代は広報を見ない人も多いと思う。

(参加者)

- ・ 民間でやっているイベント等を広報誌に載せることはできるか。

(事務局)

- ・ 営利を目的としたものになると掲載できない。

(参加者)

- ・ 行政や民間に関わらず、子育てに関する情報が1つにまとまっているサイトがあって、とても見やすくわかりやすいと思った。

(事務局)

- ・ 市では、子どものお出かけを支援するものとして「こどもーる」というウェブサイトを公開している。

- ・ 子ども連れでも安心して利用できる施設やお店を掲載しており、掲載量としては充実している。
- ・ こうしたものをより充実させていくことも手法として考えられる。

(参加者)

- ・ こども一るは初めて聞いた。
- ・ 旭川以外の人に知ってもらうためにも、「旭川 イベント」と検索したら、こども一るが一番トップに出てくるといい。
- ・ 気軽に調べられることが大事。

(参加者)

- ・ 「既にあるのに知られていない」というのがキーワードになっている。

(参加者)

- ・ こども一るは知っていたが、いろいろな場所が載っていて、情報量はすごい。
- ・ カテゴリ別に整理されているので見やすいが、改善してほしい点がある。
- ・ イベントのカテゴリがあるが、内容は支援センターや児童センターで開催されるものに限られており、科学館や図書館で開催されるものすら載っていない。
- ・ 子どもに関する情報が、民間のものも含めて一覧で載っていたら、すごく利用したと思う。

(参加者)

- ・ 民間レベルでは本当にいろいろな活動をしている人がいるが、SNSなどの個人的なつながりが基盤となっているので、あまり知られていない。
- ・ こうした情報を集約して、ちゃんと活用できる状態にすることが必要。

(参加者)

- ・ フリーペーパーのように、近い日にちのイベントを照会してくれるとわかりやすいが、広報誌は1か月単位なので忘れてしまうこともある。

(参加者)

- ・ 自社で職業体験のイベント(あさひかわキッズタウン)に出展しているが、そういうイベントがあることを入社するまで知らなかった。
- ・ 今年から、子どもと一緒になにかをしようという取組を自社で進めている。
- ・ そういう機会があれば、子ども同士はもちろん、親同士の交流にもつながる。

(参加者)

- ・ 自分が働く店でも、少しずつイベントを開催するようになってきた。

(参加者)

- ・ 時代が変わって道路などもきれいになり、砂利道やでこぼこ道など、自分たちが子どもの頃に身の回りに当たり前であった環境がなくなり、普通に生活していて経験できていたことが、あえて経験しにいかないといけないとできなくなっている。
- ・ そうして大人になった世代が今の親として子育てしている。
- ・ 子どもにとって必要な五感や運動などを経験させられる場所があって、親もそういう時代だということに気が付けば。
- ・ 便利になりすぎて、今の子どもは生きる力、感じる力を奪われていると感じているので、あえてそうしたことを経験できる場があるといい。

(参加者)

- ・ 例えばプレーパークなど、子どもがやりたいことを満足いくまでさせられることや場が必要。親は見ているとつい口を出してしまう。
- ・ 子どもが自分の足で行けて、やりたいことをやりきれるような場所があれば。

(参加者)

- ・ 昔はプレーパークがなくても、身の回りに遊べるところがたくさんあった。

(参加者)

- ・ 子どものことをとことん見守って、待つことができる親を育てるということも。

(参加者)

- ・ 子育てを始めてみて「こういうものが必要なのか」と感じることもあると思う。
- ・ 実際にお母さん方が子育てに使っていた用品などを提供できる「子育てお役立ちボックス」のようなものがあって、応援などの一言メッセージを添えられると、お母さん方をつなぐことができる。

(事務局)

- ・ 子育てに使う用品は使う時期が限られるので、うまく循環できる仕組みができれば、間接的に経済負担の軽減にもつながるかもしれない。

(参加者)

- ・ 民間でそういう取組をしているところはあるから、やっぱり知ってもらい、知らせることが大事だと思う。
- ・ 個人では発信力も弱いので、そこで市が中心になることは大事だと思う。

(参加者)

- ・ 「子育てのみの市」のようにイベントとしてやるのもいい。
- ・ 引越など、各家庭で断捨離しそうな時期にあわせるとか。
- ・ 小学校でもリサイクルには力を入れているし、子どものほうが自分が使わなくなったものを使ってほしいという積極的な気持ちがある。

(参加者)

- ・ リサイクルショップに持っていくよりも、使ってもらったほうがうれしいと思う。

(参加者)

- ・ 例えば、着なくなった制服を人に譲るときに、思い出などのメッセージを添えて贈ると、贈るほうも贈られたほうもあったかい気持ちになる。

(参加者)

- ・ 支援金や給付金はあるが、どこにどのように使うといいかわからず、子育てに有効に使えないかもしれないので、どういうタイミングでどれぐらいのお金がかかるから、ここに充てたらいいですよみたいな例があればいい。

(参加者)

- ・ 小中高校の入学のタイミングで、なににどれぐらいのお金がかかるかがわかると、貯蓄などの資金計画も立てやすい。

(参加者)

- ・ 学校などに入学するタイミングで必要な制服や教材、諸経費などは直前になって知らされる。それに加えて、参考書や衣服など必要なものを買っていくと相当な金額になる。

(参加者)

- ・ 保育所は3歳から無償だが、2歳以下は所得に応じて保育料がかかるので、そうしたことも知らせていったほうがいいかもしれない。無償化という言葉で誤解が生じないように。

(参加者)

- ・ いろいろなものを買わなきゃならないとなってから準備するまでに時間がない。もっと早めに知らせてもらえると助かる。
- ・ 今は高校に入学するときにタブレットを買わなければならないが、想定外だった。
- ・ 学校を通して買うなら指定日に注文しなければならないし、自分で買うなら機種やスペックなどを調べなければならず、制服だけでも大変なのに、余計にあたふたした。

(参加者)

- ・ 本当に子どもにお金がかかってくるのは大学以降だから、児童手当は手を付けずに貯めている。

(参加者)

- ・ どのタイミングでどれくらいのお金が必要だということがわかっていれば、児童手当や給付金などを計画的に運用できる。

(参加者)

- ・ 既にあるのに知られていないことが多く、どのように知らせていくか、見える化するか。

(参加者)

- ・ 見やすいサイトがあれば。こどもーるのバージョンアップとか。

(参加者)

- ・ こどもーるは市のサイトか。

(事務局)

- ・ 市の子育て情報サイトとして、外部委託により制作している。

(参加者)

- ・ デザインもよく、情報量も多いので、あとはイベント情報があれば。

(参加者)

- ・ 図書館とか科学館、美術館のイベントも載ってれば。
- ・ トップページに「今週のイベント」のように載せることはできるか。

(事務局)

- ・ 技術的には可能だと思うが、改修や管理コストの課題はある。

(参加者)

- ・ デザインや内容はすばらしい。

(参加者)

- ・ 掲載団体等が自分で情報を更新する仕組みはできないか。

(参加者)

- ・ 改修するとして、予算がつくのは来年か。

(事務局)

- ・ 予算がついたとして、早くて次年度からになる。

(参加者)

- ・ こどもーるのことを広報誌やライナーで周知すれば、もっと多くの人に利用してもらえるのでは。

(参加者)

- ・ 広報誌には載せられないか。

(事務局)

- ・ 広報誌で周知することはできる。

(参加者)

- ・ すばらしいサイトだと思うので、知られていないのはもったいない。

(参加者)

- ・ こどもーるはどこで周知されているのか。

(事務局)

- ・ 市のホームページ、子育てガイドブック等に載っている。

(参加者)

- ・ 子育てガイドブックのどこに載っているか。

(事務局)

- ・ (2022版の)32ページの右下に載っている。

(参加者)

- ・ これは気付かない。ロゴなどを載せないと。

(参加者)

- ・ 子育てガイドブックはいつ渡しているか。

(事務局)

- ・ 妊娠届出時や転入時に渡しているほか、支所などに備え付けている。

(参加者)

- ・ 目立つように、子育てガイドブックや広報誌の表紙に載せたらいい。

(参加者)

- ・ こどもーるは将来性があると思う。

以上